

『The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine』投稿ならびに執筆規定

(平成8年7月1日改定, 平成19年5月12日一部改正)

投稿規定

1. **投稿の内容について**：本誌への投稿原稿は、リハビリテーション医学の進歩に寄与する学術論文とし、他誌に掲載されていないもの、もしくは掲載予定のないものに限る。
2. **倫理規定について**：投稿原稿は、以下に沿ったものとする。
 - ①ヒトを対象とした研究に当たっては、Helsinki 人権宣言に基づくこと。その際、インフォームド・コンセント、所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会ないしそれに準ずる機関の承認を得ていることが望ましい。個人情報保護に基づき、匿名化すること。なお、十分な匿名化が困難な場合には、同意を文書で得ておくこと。
 - ②動物を対象とした研究に当たっては、医学生物学的研究に関する国際指針の勧告の趣旨にそったものとし、所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会ないしそれに準ずる機関の承認を得ていること。
3. **著作権について**：本誌掲載後の論文の著作権は、日本リハビリテーション医学会に帰属し、掲載後は本学会の承諾なしに他誌に掲載することを禁じる。なお論文は本誌掲載の後、オンライン公開される。
4. **著者について**：本誌への投稿の筆頭著者は日本リハビリテーション医学会会員に限る。共著者は日本人医師の場合には会員に限るが、外国人医師および医師以外の場合には会員・非会員を問わない。筆頭・共著者あわせて6名以内を原則とし、7名以上の場合は、論文での全員の役割を論文に添付するものとする。
5. **投稿承諾書について**：投稿に際しては、共著者全員がその内容に責任をもつことを明示し、署名捺印した投稿承諾書を添付するものとする。(PDF形式のファイルをダウンロード)
6. **利害衝突について**：利害衝突の可能性がある商業的取項(コンサルタント料、寄付金、株の所有、特許取得など)を報告しなければならない(投稿承諾書下欄に記入)。
7. **英文校閲証明書について**：英文論文の場合は、必ず英語を母国語とする外国人に校閲を受け、その証明書を添付するものとする。
8. **投稿区分について**：投稿論文の区分は下記の基準によるものとする。
 - ①**原著**：独創性があり、結論が明確である研究ないし報告。
 - ②**短報**：斬新性があり、速やかな掲載を希望する研究ないし報告。
 - ③**症例報告**：会員・読者にとって示唆に富む、興味ある症例の報告。
 - ④**その他**：“総説”、“会員の声”など。
9. **投稿原稿について**：本規定および執筆規定に従うものとする。
10. **採否について**：投稿論文の採否は、その分野の専門家である複数の外部査読者の意見を参考に編集委員会決定する。修正を要するものには編集委員会の意見を付けて書き直しを求める。修正を求められた場合は90日以内に修正原稿を再投稿すること。期限を過ぎた場合は新規投稿論文として処理される。
11. **校正について**：著者校正は初校のみとし、文章の書き換え、図表の修正は原則として認めない。
12. **掲載料について**：掲載料は規定の範囲内までは無料とするが、それを超えるものに関しては実費負担とする。特急掲載およびカラー掲載希望の場合は全額実費負担とする。
13. **別刷について**：別刷はすべて有料とし、50部単位の希望に関して実費負担とする。
14. **原稿送付について**：以下の2通りとする。
 - ①**郵便による方法**：投稿原稿は、正原稿1部と投稿承諾書、また英文論文の場合は英文校閲証明書を同封し、書留便にて下記宛に送付するものとする。
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂6-32-3
(社)日本リハビリテーション医学会
 - ②**E-mailによる方法**：日本リハビリテーション医学会投稿受付係 [jreha@jarm.or.jp] にPDF版の原稿と投稿承諾書を送付するものとする。投稿承諾書はFax 03-5206-6012でも可。論文原稿を1つのPDFファイルにまとめること。

執筆規定

1. **言語は和文または英文とする。**
2. **論文は和文・英文を問わず、表題頁、著者頁、英文要旨、和文要旨、本文、文献、図説明文および図・表の順で構成されるものとする。**投稿区分ごとに必要とされるものは下記の表に従うものとする。「著者頁」以外には著者を特定できる情報は入れないこと。
 - ①1頁目は**表題頁**とし、**投稿区分**、表題(和英)、ランニングタイトル、Key words(和英)のみを記載するものとする。ランニングタイトルは表題を要約した内容とし、和文の場合は30字以内、英文の場合は50字以内で記載するものとする。Key wordsは日本語およびそれに対応する英語を記載するものとする。単語は原則として規定5に従い、**名詞形で5語以内**とする。Key wordsは原則としてリハビリテーション医学用語集に従うものとする。
<表記例>物理医学(physical medicine)、片麻痺(hemiplegia)、失語(aphasia)、能力低下(disability)、電気診断(electrodiagnosis)
 - ②2頁目は**著者頁**とし、筆頭著者および共著者の氏名(和英)、所属/住所(和英)、連絡先住所、E-mailアドレス等を記載するものとする。
 - ③3頁目は**英文要旨**頁とし、規定の語数で論文の要旨を記載するものとする。
 - ④4頁目は**和文要旨**頁とし、規定の文字数で論文の要旨を記載するものとする。
 - ⑤本文は①～④の必要頁とは別に頁を改め、頁数を1

和文論文 (A4判)

投稿区分	表題と Key words	著者頁	英文要旨	和文要旨	本文 (1枚: 600字)	文献	図表 あわせて
原 著	1頁	1頁	250語以内	400字以内	15枚以内	40個以内	10個以内
短 報	1頁	1頁	250語以内	400字以内	8枚以内	20個以内	4個以内
症例報告	1頁	1頁	250語以内	—	8枚以内	20個以内	4個以内
総 説	1頁	1頁	250語以内	—	15枚以内	50個以内	10個以内
会員の声	1頁	1頁	—	—	2枚以内	—	—

英文論文 (A4判)

*外国人投稿者を除く

投稿区分	表題と Key words	著者頁	英文要旨	和文要旨	本文 (ダブルスペース)	文献	図表 あわせて
原 著	1頁	1頁	250語以内	400字以内	10枚以内	40個以内	10個以内
短 報	1頁	1頁	250語以内	400字以内	4枚以内	20個以内	4個以内
症例報告	1頁	1頁	250語以内	400字以内	4枚以内	20個以内	4個以内
総 説	1頁	1頁	250語以内	400字以内*	10枚以内	50個以内	10個以内

頁より始めるものとする。本文は原著・短報では「はじめに」「対象と方法」「結果」「考察」、また症例報告では「はじめに」「症例」「考察」のスタイルで構成するものとする。本文末の「まとめ」「結語」などは要旨と重複するので必要を認めない。

⑥図・表は1頁に1点ずつ記載するものとする。図には原則として説明文を付けるものとする。

3. 和文論文はA4判の用紙に横書きで記載し、本文は30字×20行をもって1枚とする。英文論文もA4判の用紙にダブルスペースにて記載する。いずれもパソコンのワープロソフトを使用することが望ましく、文字の大きさを10~12ポイント程度に設定し、行間を4mm以上、上下左右の余白は25mm以上空けて印字するものとする。

4. 原稿枚数は上記の表の通りとする。

5. 原稿はひらがな・口語体・現代仮名遣い・常用漢字を用い、原則として日本語の**学術用語**は「日本医学会医学用語辞典(日本医学会)」「リハビリテーション医学用語集(日本リハビリテーション医学会)」に、英語はIndex Medicusに従うものとする。

6. 数字は算用数字を用いることとする。

7. 数量はMKS (CGS) 単位とし、mm, cm, m, ml, l, g, kg, cm²などを用いることとする。

8. 特定の**機器・薬品名**を本文中に記載するときは以下の規定に従うものとする。

①**機器名**: 一般名(会社名, 商品名)と表記する。

〈表記例〉MRI (Siemens社製, Magnetom)

②**薬品名**: 一般名(商品名[®])と表記する。

〈表記例〉塩酸エペリゾン (ミオナル[®])

9. **略語**を用いる場合は初出時にフルスペル, もしくは和訳も併記する。

10. **文献**は著者のアルファベット順または本文での引用順に記載し, 通し番号をふるものとする。本文中の引用箇所には上付き数字で文献番号を記載するものとする。文献の省略名は原則としてIndex Medicusに従い, 引用文献の**全著者名**を記載すること。**和文誌**の引用については**略名は使用しない**。単行本の引用に際しては, 書名の他にeditor(s)を記載し, また

proceeding(s)ないし抄録引用の場合には, 末尾に必ず(proc.)ないし(抄)と記載すること。

英文論文中に日本語文献を引用する際, 雑誌名は英語またはローマ字(Japanese)で記載するものとする。**本学会誌誌名変更に伴い, 44巻以降の掲載記事の引用については「Jpn J Rehabil Med」と記載することとする。**

〈表記例〉

- 1) 秋庭保夫, 石田 暉, 村上惠一, 原沢 茂, 生越喬二: 上部脊髄損傷患者の消化管合併症に対する消化管機能検査と内視鏡検査による検討. リハビリテーション医学 1994; 31: 178-183
- 2) 田谷勝夫, 石神重信: 職業リハビリテーション領域におけるRBMTの有用性. リハビリテーション医学 2001; 38 (Suppl): S135
- 3) 三上真弘 編: 下肢切断者リハビリテーション. 医歯薬出版, 東京, 1995
- 4) 浅山 澁: 腰部脊柱管狭窄症. 臨床リハビリテーション別冊実践リハ処方 (米本恭三, 石神重信, 浅山 澁, 木村彰男, 平澤泰介 編). 医歯薬出版, 東京, 1996; pp188-192
- 5) Kreutzer JS, Marwitz JH, Seel R, Serio D: Validation of a neurobehavioral functioning inventory for adults with traumatic brain injury. Arch Phys Med Rehabil 1996; 77: 116-124
- 6) Downey JA, Myers SJ, Gonzalez EG, Lieberman JS (eds): The Physiological Basis of Rehabilitation Medicine. 2nd Ed, Butterworth-Heinemann, Boston, 1994
- 7) Liu M, Ishigami S: Toward future research. in Functional Evaluation of Stroke Patients (ed by Chino N, Melvin JL). Springer Verlag, Tokyo, 1996; pp 125-142
- 8) MacKay-Lyons MJ, Markides L: Exercise capacity early after stroke. Arch Phys Med Rehabil 2002; DOI: 10.1053/apmr.2002.36395 (注: DOI: Digital Object Identifier. 文献はhttp://dx.doi.org/10.1053/apmr.2002.36395に掲載)
- 9) National Guideline Clearinghouse (NGC). Public resources for evidence-based medicine clinical practice guidelines. Available from URL: http://www.guideline.gov (cited 2002 June 12)
- 10) 大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課. 人口動態調査; 年次別にみた死因順位. Available from URL: http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/gaiyo/k-jinkou.html (2002年6月12日引用)
- 11) Clinical Evidence. 6 issue [Database on CD-ROM] London: BMJ Publishing Group; 2001 (Updated biannually)

投稿承諾書

No. _____

下記の投稿論文を『The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine』に投稿致します。なお、本論文は他誌に掲載済み、あるいは掲載予定のものではありません。また、『The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine』に掲載後の本論文の著作権は、日本リハビリテーション医学会に帰属することを承諾致します。

筆頭著者：

<会員番号>

<所属>

<氏名（署名・捺印）>

①

投稿区分：〔原著 短報 症例報告 総説 会員の声 その他〕（○を付ける）

論文題目：

上記論文を投稿するにあたり、共著者として、筆頭著者同様にその内容について責任を有するとともに、本論文が他誌に掲載済み、あるいは掲載予定のものではないことを確認します。また、『The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine』に掲載後の著作権が日本リハビリテーション医学会に帰属することを承諾致します。

共著者：

<会員番号>

<所属>

<氏名（署名・捺印）>

①

②

③

④

⑤

年 月 日 提出

※非会員である場合は、会員番号欄に専門科職名をご記入ください。

利害衝突に関する商業的事項：なし あり→別紙で報告書（形式自由）を作成してください。